梅干しの六次化を決意

売をするのが前田農園だ。 わり梅を利用し、梅干しの生産、販 農園と契約農家から仕入れるこだ 南部に位置する田辺市で、自社 日本一の梅の生産地、和歌山

なっている。 ながり、バイ 約が安定した梅干しの出荷へとつ 独自に考えた梅農家との五カ年契 生産を持続可能なものにしようと を伸ばしている。さらに、地域の梅 全志向の消費者に受け、売り上げ 生産者の顔が見えると、安心・安 ヤーからの信頼と

産を開始した。 かったという自社梅の全量 では当時ほとんど行われていな (三五歳)と梅生産に携わり、 ンした。そして娘の三浦亜希さん ていた商社を辞め田辺市にUター 前田比呂志さん(六〇歳)は勤務し 齢となった両親から引き継ぐため 一〇〇八年、代々続く梅園を高 二貫生 地域

梅やかつお梅などの梅干し製品に 社で塩抜き・調味をしてはちみつ 工会社に販売する。その後、加工会 加工した上で、仲買人を通じて加 用梅干し(塩分濃度二〇%)に一次 を塩漬け、天日干しまでして原料 地域では、梅農家が生産した梅

経営紹介

自社と複数年契約農家の梅を原料に 産加工販売の顔が見える一貫経営



和歌山県田辺市 株式会社 前田農園

設立●2012年 代表取締役会長●前田 比呂志 代表取締役社長●三浦 亜希

> が減少したことに伴い、A級の購 たいが、仲買人は近年贈答用需要

入を敬遠する傾向があるという。

地域の梅生産者仲間数人と定期

資本金●300万円 事業内容●梅の生産、加工、販売

> 級」「C級」それ以外を意味する 物を示す「A級」から始まり、 がある。原料用梅干しの等級は、 産者と仲買人の間では考えの乖 農家の経営は不安定だ。さらに、 生産量が大きく変動するので、

В

「外」があり、生産者は高く販売し

自社加工場の前で。(提供:株式会社 前田農園)

URL https://bso16329.bsj.jp/

こだわりの梅生産

だ」と全量一貫生産を決めた。

はならない。自社で梅干しに加工 れからは二次加工までやらなくて

し、付加価値を付けて販売するの

地域梅農業の未来について考えた 的に勉強会を開くなど切磋琢磨し

結果「農業だけでは儲からない。こ

と調和した梅づくりを目指してい えている。また、有機肥料を主体と 薬は梅の慣行栽培の半分以下に抑 園では、除草剤の散布は行わず、農 した施肥計画を立てるなど、自然 梅を生産するにあたり、 前 田

仲買人から原料用梅干しを仕入れ ほとんどの梅干しメーカーは、 二次加工するのが通常だ。

しかし、春先の気候次第で梅

だわりの栽培をアピールすること で差別化が可能だと考えた。 ていたため、前田農園のこれらこ

がらのしょっぱい梅干しだ。三浦 ま味がよく感じられる濃度だとい さんによると、これらが酸味とう てもらいたい」と考えており、商品 わりがある。「ご飯のおともに食べ 塩分濃度は約八~一二%、昔な また、梅干しの味付けにもこだ

そのため、多くのメーカーが販売 らの梅干しをつくっていきたいと しているが、前田農園では昔なが 後の減塩梅干しがはやっている。 ることもあり、 近年は健康志向が強くなってい 塩分濃度が三%前

す」と三浦さんは理由を語る。 客さまに味わってもらいたいんで いしいと私たちが思う梅干しをお 丹精込めて育てた梅です。一番お あることは分かっています。でも 一減塩梅干しに一定のニーズが

代のネットワークを活かし、主に 舗メーカーが卸していた。 地元の卸業者や小売店には既に老 の品質には自信があったものの、 販路の開拓だが、完成した商品 前田さんの商社勤務時

和歌山から近い関西圏の量販店な

どに営業に回ったという。

り先も増えていきました」と二人 を知ってもらうよう努力して、売 は当時を振り返る。 て生産した梅の加工品ということ も、味はもとより自社でこだわっ 年は、本当に厳しかったです。で 「加工販売に取り組んでから数

り扱われており、またOEM生産 を占める。平和堂やイズミヤと いったスーパーや百貨店などで取 現在、販売先は関西圏が七〇%

てもらえたら」(前田さん)

して、紀州の南高梅のことを知っ てもらうことなどが大切です。そ

題の一つと考えている。 であるため、今後の販路開拓が課 なお、東京など関東圏は一○%

契約農家から全量買い取り

見える商品であることが重要なの 同等な高度なものだ。これは、顔の で譲れない。 述の前田農産が行っているものと 接、栽培契約を結ぶようになる。 るため、前田農園は近隣農家と直 二〇一二年、増える需要に応え 契約の内容だが、生産条件は、前

量買い取る。 した原料用梅干しについては、全 の生産計画に基づいて農家が出荷 一方で、契約時に立てた五カ年

買い取り価格は毎年変わるが、

け応えたい」と前田さんは言う。さ らに最低買い取り保証金額を定め が、農家さんの頑張りにできるだ んの少しだけという年もあります

リットがある。 かつ安定的な収入につながるメ に影響を受けにくくなり、計画的 契約農家には不安定な市場価格

す。 ウィン・ウィンの関係を築くこと の南高梅を守るためにも生産者と から高く評価されています。紀州 安定した梅干し出荷量がバイヤー 作が続いているので、前田農園 ができます。ここ数年間は、梅の不 が重要なんです」と三浦さんは話

した。 は四〇先となった。増産に対応す 公庫資金を利用して新工場を建設 るよう一六年、認定農業者になり 契約農家は、年々増加し、現在で

梅干しのイメージ変える

ŋ うところから始めている。種を取 は梅干しを気軽に手に取ってもら が大きな課題だというが、解決に 除いて携帯しやすい「スタンド A級を利用した商品の販路拡大

般市場価格より高いものだ。「ほ

うこと、梅干しの疲労回復や抗酸

「まずは、梅干しに親しんでもら

化作用など素晴らしい効能を知っ

前田農園は安定した原料調達

化した。梅干しになじみが薄 ゲンはちみつ梅干し」などを商品 パック」詰めしたものや、「コラー い世代や美容意識が高い女性を意

を差し入れる場面があっても素敵 多々ある。「例えば、A級の大きな きたといっても、お世話になった だ。お歳暮の習慣が下火になって よ」と三浦さんは笑顔を向ける。 め、全国を(営業に)飛び回ります 紀州の南高梅の可能性を広げるた たらいい。ケーキの代わりに梅干し ングして、おしゃれな雑貨屋さんで 梅干し一粒をかわいらしくラッピ お礼などで贈り物をする場面は プチギフト用に取り扱ってもらえ また、贈答商品の開発も試

くれた。 うと動いている二人。「これからも でも頑張ります」と力強く話して やるべきことは山積しています。 の発展のために地域の中心になろ 自社のためのみならず、梅産業

情報企画部 柴崎 勇太

宮崎県

有限会社四位農園

冷凍加工用野菜を自社農場で全量生産 自然循環型農業貫く、強みは「本物野菜」

た六次産業化だ。 売している。農工一体に販売まで加え 自社工場でほぼ全量を冷凍加工し販 メーカー向けに生産。収穫後すぐに の野菜を、全国のスーパーや惣菜 ホウレンソウなど一〇種類の業務用 宮崎県で「本物野菜」を強みにした

て冷凍用野菜生産を行う仕組みも開 水田を借り受け、裏作の形で畑にし 業へのこだわりがすごい。米収穫後の 完熟堆肥づくりなど、自然循環型農 中でも「本物野菜」の裏付けとなる

適地適作・適期適作で臨む

のお考えですか? ると、話題になっています。四位さん クな考えを経営方針に打ち出してい -四位農園は、品質に対してユニー

> 四位 を打ち出しています。 が最重要と考え、五項目の「品質方針」 げ、そのために品質に磨きをかけるの 農業を目指すことを経営の前面に掲 私たち四位農園は自然循環型

栽培」という部分が分かりにくい、と よく言われます。 ても」は誰も異存はないでしょうが、 いう部分のことだと思います。「食し ても安全である形で栽培し続ける」と するものは食しても、自然界に放置し 自然界に放置しても安全である形で ユニークというのはたぶん、「栽培

四位 界に野菜が放置されたままでも十分 に安全と言える野菜の栽培を目指す どんな意味合いがあるのです 土づくりをしっかり行い、自然

べきだ、ということを言いたかったの

しろにしているところがあり、問題だ 農業生産現場ではそれらをないが

と思っているのです。

-と言いますと?

させています。 農薬や化学肥料を使って生長を促進 りますが、それでも生産者によっては という意識が現場には定着しつつあ 四位 今でこそ安全・安心の作物生産

な特性を活かした適地適作、 体的にどのような取り組みを? 作を基本にしています。 四位 私たちは、野菜が持つさまざま - 四位農園は、その点に関して、具 適期適

価値づくりにつなげる創意工夫が重 どあらゆるものを見極め、適作に徹す ることが重要です。そして次に、付加 つまり生産する地域の気候、風土な

要になります。

半端でない土づくり目指す

りは、半端なものではないと自負して 四位 私たちの土づくりへのこだわ 取り組みは、それがベースに? います。 四位農園の自然循環型農業への

ず自然循環型農業を目指しています が、その場合、土づくりがポイントに 化学肥料や農薬をできるだけ使わ

肥は、私たちの強み部分だと考えてい ワラ、落ち葉の土着菌などを混ぜ合わ 畑に投入しています。自社製の完熟堆 せ、しっかり発酵した完熟堆肥にして そこで、有機物や丹念にすき込んだ

そこまで堆肥にこだわる自社生

彰] 生産局長賞受賞

年創業、八九年設立。自然循環型農業と品質経 資本金五〇一〇万円。年商一七・五億円。一九六五宮崎県小林市に本社。四位栄介代表取締役社長 主催の「国産野菜の生産・利用拡大優良事業者表 実習生を含め一五〇人。二〇〇八年、農林水産省 含めた延べ栽培面積は五〇〇稔。社員は外国人 グループ企業保有農地が二八〇稔。借地、輪作を の野菜を生産、冷凍加工し販売する。自社および 営を軸にホウレンソウ、エダマメなど一○種類 有限会社匹位農園 トラクターを独自開発。海外先進地の視察にも行 農園を設立し、生産も開始。機械好きで野菜収穫 た後、野菜集荷事業者として独立。八九年に四位 入り二年間の研修後に実家の野菜生産に携わっ 小林高校卒業後、農水省園芸試験場久留米支場に しい ひろふみ 九五一年宮崎県生まれ。六六歳。七一年宮崎県立



水田裏作のホウレンソウ。右後方は四位さんが開発した収穫 ラクタ-

産はすごいですね

四位 上層土と入れ替える作業を丹念に行 土を耕し、新鮮な下層土を掘り返し ります。連作障害を避けるため深く 土づくりのこだわりはまだあ

能になるのです。 作目によっては年二・五回の輪作も可 なって栄養分の吸収が良くなります。 深耕することで、作物の根も太く

加工も自社工場で行うというのは珍 用の野菜を外部に頼らず自社生産し、 野菜の冷凍加工に関して、原料

四位 すかっ ました。

位農園産と偽装表示したのです。 る冷凍加工業者が、中国産野菜を四 凍野菜の残留農薬問題が浮上。その 時に私たちが野菜を供給していたあ そんな矢先、日本国内で中国産冷

れかねません。信用問題に関わります。 **゚**からは「問題が起きた会社」と見ら 位 また、冷凍加工用野菜に関しては、 私たちは被害者でしたが、世

四位 野菜がらみでトラブルに巻き込まれ 実は、一三年ほど前に、中国産

しいのでは?

ず、自社で全てやろうということを決 断したのです。 や冷凍加工に関して、外部に依存せ 取得すると同時に、冷凍用野菜生産 菜の品質証明につながる国際認証を その対応策として、四位農園産の野

ある事件を機に自社一貫生産

どのようなトラブルだったので

も大変だったでしょう?

見込める業容拡大の時期でした。そこ 面で問題が多く、断念しました。 に行きましたが、農薬など安全管理の 輸入も検討しようと中国に現地調査 で取扱量を増やすため、中国産野菜の などをベースに冷凍用野菜の需要が 当時は、スーパーとの栽培契約

たとか? 原工場建設に際しては、近くの霧島新い そして、冷凍加工の第二工場の高

- それは大問題でしたね み切りました。

菜が私たちの品質基準を満たしてい 産の委託をしていたのですが、その 社生産で追い付かず、地域の農家へ生 私たちへの需要増に対応するには自 野

ないケースが出てきました。

す。 原料生産から加工までを行うという のはすごい決断ですし、設備投資など 体の一貫生産体制に切り替えたので 社冷凍工場で加工する、という農工 全量、自社農場に一本化し、同時に自 料野菜の供給を一切停止して、生産は そこで、外部の冷凍加工業者への原 農業法人一社で全量、冷凍野菜の

四位 農業をベースにした品質第一の経営 は実現できないと思ったのです。 しないと、私たちが掲げた自然循環型 まで自社で一貫して行うシステムに 野菜の栽培から冷凍加工、そして販売 勇気のいる決断でした。しかし

けないと自身に言い聞かせ建設に踏 ういった時期に後ろ向きになっては 建設判断が問われたのです。でも、 で火山灰などが降ってきて、新工場の 四位 二〇一一年一月、新燃岳の噴 燃岳の噴火に遭遇され、ご苦労があ

ています。 働いたことを今でもはっきりと覚え た野尻工場と合わせて、がむしゃらに 命感を抱きました。すでに稼働してい き、われわれが頑張らなくては、と使 その二カ月後に東日本大震災が起

水田の裏作で野菜生産

され需要増となったものの、生産対応 手法を開発されたのは興味深いです できず、水田裏作で野菜を生産する 冷凍加工した「本物野菜」が評価

四 位 に切り替えるのも一案だと考えたの の水田を借り受けて裏作の形で畑作 に難しくなってきた時に、米の収穫後 は増産余力を持つ必要がありました。 打ち出した手前、需要増に対応するに そのため、借地での規模拡大も次第 全て自社生産する経営方針を

は、生産への影響はなかったのです に戻して稲作生産者に返すというの - 野菜生産を終えた畑をまた水田

ソウを栽培したのです。 けることができ、主力野菜のホウレン 者の方々から三〇鈴の水田を借り受 す。同じ宮崎県内の西都市の米生産 全たい肥をベースにした土づくりで 四位 そこで生きたのが、私たちの完

でしょう?

ンでした。 良かったのです。まさにウィン・ウィ 米収量を記録し喜ばれました。土が りをしたある生産者は、県内第二位の ホウレンソウ収穫後の水田で米作

生産力も上がり画期的です。 増える状況下で、表作・裏作によって 水田のフル活用の仕組みができれば - 耕作放棄地が農業者の高齢化で

四位 ます。 う手法も今後の水田活用策だと思い も一つの判断ですが、裏作で畑作を行 動きが出てきています。飼料用米生産 方々の間には水田で飼料用米を作る 進していることもあり米生産者の 今、国が飼料用米の生産を推

の生産管理はどのようにしているの は延べ五〇〇鈴にも及ぶとか。ほ場で 地や輪作を含めると年間の栽培面積 応しきれずお断りしたほどです。 も使っていい」と言われましたが、対 ます。そのため、ある生産者から「夏場 してお返しするやり方で対応してい 地料でお借りして、土づくりも完璧に 私たちは一〇『当たり一万円の借 栽培するほ場が四八五カ所、借

四位 借りている水田、そして輪作分を含め 農地が二八〇鈴、それ以外に裏作用に た延べ栽培面積は、五〇〇鈴になりま 自社保有地とグループ企業の

> の作業工程や品質の管理は、情報通信 す。これだけの規模になると、ほ場で 技術(ICT)を抜きにしては語れま

ティーへの取り組みを始めました。 歴管理には取り組んでいましたが、こ 育状況など、細かいチェックをしてい ブレット端末を持ち、ほ場の野菜の生 した。現在、現場で作業する社員はタ のときから今でいうトレーサビリ ○○○年のことです。それ以前から履 し、生産履歴を電子管理化したのが二 その後、本格的にICTを導入しま まず、私たちが社内LANを整備

外部人材の活用も経営課題

ます。

り、国際標準化機構(ISO)の認証な ども取得しているそうですね。 食品の品質と安全管理にこだわ

ました。 組みをきちんと構築したいという思 四位 組織としてマネジメントの仕 ○八年にIS○22000を取得し いから、二〇〇五年に

ISO9001

得しました。 際認証であるグローバルGAPを取 めとして、二〇〇九年には事実上の国 また、農業法人としての基本の足固

○二年にエコファーマー認定も取得 このほか、○一年にJAS有機認証

> 優れた外部の経営人材などの活用が が、今後のことを考えると事業承継や んでいる証明のようなものです。 しました。食品安全や品質に取り 素晴らしい取り組みの数々です

考えはじめ、六五歳の時、息子で現社 四位 その通りです。実は、私は六二、 長の栄介に事業承継しました。 三歳の頃から経営のバトンタッチを

課題になりますね。

け止め共感し、「農業は面白い」と感じ 外部から招き入れることも重要で、す くと同時に、農業技術や財務などのプ てくれる人が参加してくれることです。 は私たちの経営理念をしっかりと受 でにいくつかチャレンジしています。 ロフェッショナルを経営人材として でも、人材に関して一番大事なこと 今後は若い世代に経営を託してい 外国人も受け入れているそうで

四 位 今後、農業などを通じて日本とアジ ことですね。彼らは向学心が旺盛で、 きる頼もしい人たちです。 ア諸国の架け橋になることが期待で ベトナムからの技能実習生の

きたいと思っています。 などの伝達を進めて、国際貢献してい 力を評価し、生産技術や経営ノウハウ そのため、私たちは、彼ら実習生の

(経済ジャーナリスト